

急変貌する韓国

韓国国立慶尚大招聘教授

(元日本金属工業常務、計量史学会理事)

新井宏

会社の現役を退いた五年ほど前から、韓国の国立慶尚大学で招聘教授をしながら、趣味の歴史や考古学の研究成果を日韓の学会誌に発表し続けている。そして今年になってから、そのいくつかが読売新聞などに結構大きく紹介され、関連して講演の依頼が相次いでいる。

そのひとつは、大化改新以前の土地制度「代制」が朝鮮半島の「結負制」とまったく同じもので、私の提唱する「古韓尺：二十六・七センチ」によっており、しかもその計量システムが日本の前方後円墳の築造に広く用いられていたという話であり、もうひとつは邪馬台国論争に関連して、昨年新聞を大きく賑わした「泉屋博古館」の発表、すなわち三角縁神獣鏡が組成から見て中国産と確定したという報告が、金属考古学的にはまったく誤解に基づく無意味なものだという話である。

もともと原稿を書いたり講演をしたりするのが苦にならない方である。私の研究の話を聞いて頂けるなら講演料の有無などに関係なく、どこにでも飛んで行く。そんな中で、自己紹介を兼ねてイントロで「急変貌する韓国」の話をする、これが大変に受ける。その内に韓国の話だけをして欲しいという依頼まで飛び込んでくるほどである。

ご承知のように、最近日韓関係がギクシャクしている。日韓のテレビや新聞を見ていると韓国の反日感情が沸騰しているようにさえ見える。しかし韓国にいと全くそのように感じない。その差はどこから来ているのだろうか。

それは韓国という国があまりにも急変貌していて二面性を持っていることに起因している。大学進学率が日本をはるかに追い越し世界一位であるとか、平均出産率が日本の一・二九人を割り込み一・一七名になっているとか、晩婚化も激しく進み、結婚が年三十二万組なのに離婚が十三万五千組もあるとか、四百万人もカード信用不良者がいるとか、不動産バブルが激しく進行しているとか、とにかく韓国は激変している。そしてその急激な変化すなわち先進国化は、後進国部分との極端な二重構造を生んでいる。

もともと韓国の先進国化は軍部や政府あるいは日本と結んだ財閥系大企業が経済面で引張ってきた。そのため先進国部分にはどうしても汚職体質が見え隠れし、これに韓国の後進国部分が激しく反発してきた歴史がある。今の盧武鉉政権は、その後進国部分の支持で誕生したものである、反先進国的になり勝ちで、そのため経済がなかなかうまく行かない。景気が沈滞して、働く場づくりに失敗し、いまや人気急落している。

いわば扇動家として登場した盧大統領は、ここで人気回復のため、一時的に大衆受けする対日強硬策をかかげたくなった。竹島問題に便乗して激しい行動をとったのはそのためである。

しかし韓国はもはや先進国の部分が主流となっていて昔のような後進国ではない。外交当局との事前調整もなく、人気取り的な行動をとったことには、さすがに韓国内でも批判が相次いだ。最終ゴールを死守すべき大統領が勝手に飛び出したと揶揄される始末である。

先進国としての韓国はどうやって日本とうまくやって行くことこそが本音であり、反日など過去の話である。だから騒ぐのが好きなテレビなどで一時的に反日を盛り上げて、

すぐ沈静化してしまう。したがって韓国で先進国的な日常生活をしている限り、反日など全く感じないのである。

講演でそんな話をすると、わが古代史の話よりも受けるのがちょっとシャクである。